

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	盛岡医療福祉スポーツ専門学校
設置者名	学校法人龍澤学館

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の授業時数又は単位数	省令で定める授業時数又は基準単位数	配置困難
教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	夜・通信	1,891 時間	160 時間	
	こども福祉学科	夜・通信	2,453.5 時間	240 時間	
	こども未来学科	夜・通信	2,061 時間	160 時間	
	社会福祉学科	夜・通信	1,904 時間	240 時間	
	心理福祉学科	夜・通信	2,341 時間	320 時間	
商業実務専門課程	医療事務学科 医療事務コース	夜・通信	1,395 時間	160 時間	
	医療事務学科 短大併修コース	夜・通信	1,214 時間	160 時間	
医療専門課程	柔道整復学科	夜・通信	1,416 時間	240 時間	
	鍼灸学科	夜・通信	1,697 時間	240 時間	
	歯科衛生士学科	夜・通信	2,375 時間	240 時間	
文化・教養専門課程	スポーツ健康学科	夜・通信	930 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.morii.ac.jp/other/information

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	盛岡医療福祉スポーツ専門学校
設置者名	学校法人 龍澤学館

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.morii.ac.jp/other/information>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社顧問	令和2年1月17日～ 令和6年1月16日	産業界からの人材 育成に対するアド バイス
非常勤	会社相談役	令和2年1月17日～ 令和6年1月16日	産業界からの人材 育成に対するアド バイス
非常勤	会社取締役頭取	令和2年1月17日～ 令和6年1月16日	産業界からの人材 育成に対するアド バイス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	盛岡医療福祉スポーツ専門学校
設置者名	学校法人龍澤学館

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>当該学年が新年度を迎える前年度の12月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て1月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス(授業計画)案を各科目担当者が作成し、各学科の教務主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る(1～3月)。</p> <p>シラバス(授業計画)案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。</p> <p>4月、新年度の各学科の授業開始までに、「学生の手引き(履修の手引き)」を用いた履修ガイダンスを実施する。併せて、シラバス(授業計画書)を随時確認できるよう、ホームページ上でも公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.morii.ac.jp/other/information.html
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか(複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある)により、学修成果を評価し、厳格かつ適正に履修認定を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価対象となるテストの得点率60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率90%以上で、かつ、科目出席率80%以上。もしくは、全体出席率3分の2以上。 ・受講態度 <p>各科目における最終評価は5段階(秀・優・良・可・不可)もしくは4段階(A・B・C・D)とし、不可(D)の評価を得た際には、当該科目の履修要件を満たさないものと判定する。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各学生が年度末までに得た成績評価を数値化し、総受講科目の合計値を求め受講科目数で除して得られる数値を、学生の「個別評価平均値」として算出し、学科内での成績分布状況を把握する際の指標とする。</p> <p>※成績評価を受ける前の段階において、成績の分布状況を把握する必要がある際には、小テストや模擬試験等の得点をもとに学科内の平均点や個別の総得点を算出し、指標とすることもある。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.morii.ac.jp/other/information</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各学科のディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーは、学科教員間で検討した原案を基に、学内会議で協議したうえで承認されたものを、(学生の手引きへ掲載・配布及び履修ガイダンスを通じて) 学生へ周知している。また、これらの内容については、随時確認できるようホームページ上でも公開している。</p> <p>卒業認定については、卒業年次の1月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定している。</p> <p>《ディプロマポリシー》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野の知識と技術を正確に習得している ・社会人としてのマナーを体得・実践している ・生命に対する尊厳と真の優しさを身につけている 	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.morii.ac.jp/other/information</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	盛岡医療福祉スポーツ専門学校
設置者名	学校法人龍澤学館

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.morii.ac.jp/other/information
収支計算書又は損益計算書	https://www.morii.ac.jp/other/information
財産目録	https://www.morii.ac.jp/other/information
事業報告書	https://www.morii.ac.jp/other/information
監事による監査報告（書）	https://www.morii.ac.jp/other/information

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,891 単位時間	880 単位時間	555 単位時間	456 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		1,891 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		59人	7人	5人	22人	27人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>当該学年が新年度を迎える前年度の12月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て1月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス（授業計画）案を各科目担当者が作成し、各学科の教務主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る（1～3月）。</p> <p>シラバス（授業計画）案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか（複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある）により、学習成果を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価対象となるテストの得点率60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率90%以上で、かつ、科目出席率80%以上

<p>・受講態度</p> <p>各科目における最終評価は4段階（A・B・C・D）とし、不可（D）の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>卒業認定については、卒業年次の1月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については3月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>クラス担任制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定、国家試験等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	18人 (100%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、在宅支援サービス、小規模多機能施設</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 求人票の受付と、学生への公開 ・ 個別面接練習 ・ ハローワーク、福祉の人材センター（社協）との連携 ・ 介護養成校と社協との連携 ・ 職場開拓（就職担当、担任） ・ 就活相談（要望に応じて、適宜） ・ （担任）就職研究授業（職場研究、自己分析、履歴書の書き方） ・ （担任）就職ガイダンス （学生と保護者対象、就職オリエンテーション、先輩講話など） ・ （担任）集団模擬面接指導 ・ （担任）職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導 			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>介護福祉士受験資格</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
60人	5人	8.3%
(中途退学の主な理由) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更・成績不良等。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人との日常的面談、相談室利用の斡旋、複数教員による声かけ、保護者との面談を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉専門課程	こども福祉学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,733.5 単位時間	755 単位時間	1,360 単位時間	486 単位時間	0 単位時間	132.5 単位時間
			2,733.5 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		30人	0人	3人	31人	34人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 当該学年が新年度を迎える前年度の12月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て1月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス(授業計画)案を各科目担当者が作成し、各学科の教務主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る(1～3月)。 シラバス(授業計画)案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。
成績評価の基準・方法
(概要) 各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか(複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある)により、学習成果を評価する。 ・評価対象となるテストの得点率60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率90%以上で、かつ、科目出席率80%以上 ・受講態度 各科目における最終評価は4段階(A・B・C・D)とし、不可(D)の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。

卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定については、卒業年次の1月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については3月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。
学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定、国家試験等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	12人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) やはばこども園、おさなご幼稚園、なでしこ保育園、こどものくに保育園、台太郎こども園			
(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> ・求人票の受付と、学生への公開 ・個別面接練習 ・ハローワーク、福祉の人材センター（社協）との連携 ・幼稚園連合会や保育所連合会との連携（意見交換会への参加） ・職場開拓（就職担当、担任） ・就活相談（要望に応じて、適宜） ・（担任）就職研究授業（職場研究、自己分析、履歴書の書き方） ・（担任）就職ガイダンス （学生と保護者対象、就職オリエンテーション、先輩講話など） ・（担任）集団模擬面接指導 ・（担任）職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導 			
(主な学修成果（資格・検定等）) 保育士、幼稚園教諭二種免許状			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34人	2人	5.9%

(中途退学の主な理由) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等。
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人との日常的面談、相談室利用の斡旋、複数教員による声かけ、保護者との面談を行っている。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉専門課程	こども未来学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,043.5 単位時間	660 単位時間	825 単位時間	476 単位時間	0 単位時間	82.5 単位時間
			2,043.5 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100人		63人	0人	6人	31人	37人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 当該学年が新年度を迎える前年度の12月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て1月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス(授業計画)案を各科目担当者が作成し、各学科の教務主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る(1～3月)。 シラバス(授業計画)案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。
成績評価の基準・方法
(概要) 各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか(複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある)により、学習成果を評価する。 ・評価対象となるテストの得点率60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率90%以上で、かつ、科目出席率80%以上 ・受講態度 各科目における最終評価は4段階(A・B・C・D)とし、不可(D)の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定については、卒業年次の1月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については3月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。

学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定、国家試験等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
36人 (100%)	0人 (0%)	34人 (94.4%)	2人 (5.6%)
(主な就職、業界等) 聖光保育園、大槌保育園、鹿角市子ども未来事業団、こどものくに保育園、清光学園			
(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ 求人票の受付と、学生への公開 ・ 個別面接練習 ・ ハローワーク、福祉の人材センター（社協）との連携 ・ 幼稚園連合会や保育所連合会との連携（意見交換会への参加） ・ 職場開拓（就職担当、担任） ・ 就活相談（要望に応じて、適宜） ・ （担任）就職研究授業（職場研究、自己分析、履歴書の書き方） ・ （担任）就職ガイダンス （学生と保護者対象、就職オリエンテーション、先輩講話など） ・ （担任）集団模擬面接指導 ・ （担任）職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導 			
(主な学修成果（資格・検定等）) 保育士、幼稚園教諭二種免許状			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
67人	4人	6.0%
(中途退学の主な理由) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人との日常的な面談、相談室利用の斡旋、複数教員による声かけ、保護者との面談を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉専門課程	社会福祉学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,911 単位時間	1,912 単位時間	300 単位時間	304 単位時間	0 単位時間	395 単位時間
			2,911 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	52人	0人	1人	40人	41人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>当該学年が新年度を迎える前年度の12月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て1月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス（授業計画）案を各科目担当者が作成し、各学科の教務主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る（1～3月）。シラバス（授業計画）案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか（複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある）により、学習成果を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価対象となるテストの得点率60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率90%以上で、かつ、科目出席率80%以上 ・受講態度 <p>各科目における最終評価は4段階（A・B・C・D）とし、不可（D）の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業認定については、卒業年次の1月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については3月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定、国家試験等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	18人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 高齢者や障がい者等の福祉施設			
(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ 求人票の受付と、学生への公開 ・ 個別面接練習 ・ 福祉の職場ガイダンス（社会福祉学科対象） ・ ハローワーク、福祉の人材センター（社協）との連携 ・ 社協との連携 ・ 職場開拓（就職担当、担任） ・ 就活相談（要望に応じて、適宜） ・ （担任）就職研究授業（職場研究、自己分析、履歴書の書き方） ・ （担任）就職ガイダンス （学生と保護者対象、就職オリエンテーション、先輩講話など） ・ （担任）集団模擬面接指導 ・ （担任）職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導 			
(主な学修成果（資格・検定等）) 社会福祉士受験資格、介護職員初任者研修			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
52人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人との日常的面談、相談室利用の斡旋、複数教員による声かけ、保護者との面談を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉専門課程	心理福祉学科		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技

4年	昼	3,735 単位時間	3,044 単位時間	284 単位時間	324 単位時間	0 単位時間	83 単位時間
			3,735 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	36人	0人	2人	28人	30人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>当該学年が新年度を迎える前年度の12月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て1月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス（授業計画）案を各科目担当者が作成し、各学科の教務主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る（1～3月）。</p> <p>シラバス（授業計画）案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか（複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある）により、学習成果を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価対象となるテストの得点率60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率90%以上で、かつ、科目出席率80%以上 ・受講態度 <p>各科目における最終評価は4段階（A・B・C・D）とし、不可（D）の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業認定については、卒業年次の1月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については3月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定、国家試験等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他

11人 (100%)	1人 (9.1%)	9人 (81.8%)	1人 (9.1%)
(主な就職、業界等) 障害者支援施設、児童デイサービス等			
(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ 求人票の受付と、学生への公開 ・ 個別面接練習 ・ ハローワーク、福祉の人材センター（社協）との連携 ・ 社協との連携 ・ 職場開拓（就職担当、担任） ・ 就活相談（要望に応じて、適宜） ・ （担任）就職研究授業（職場研究、自己分析、履歴書の書き方） ・ （担任）就職ガイダンス （学生と保護者対象、就職オリエンテーション、先輩講話など） ・ （担任）集団模擬面接指導 ・ （担任）職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導 			
(主な学修成果（資格・検定等）) 精神保健福祉士・社会福祉主事・児童福祉司・知的障害者福祉司・介護職員初任者研修			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人との日常的面談、相談室利用の斡旋、複数教員による声かけ、保護者との面談を行っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	医療事務学科 医療事務コース	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,120 単位時間	1,220 単位時間	240 単位時間	120 単位時間	0 単位時間	540 単位時間
		2,120 単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	36人	0人	2人	9人	11人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>当該学年が新年度を迎える前年度の12月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て1月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス（授業計画）案を各科目担当者が作成し、各学科の教務主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る（1～3月）。</p> <p>シラバス（授業計画）案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか（複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある）により、学習成果を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価対象となるテストの得点率60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率90%以上で、かつ、科目出席率80%以上 ・受講態度 <p>各科目における最終評価は4段階（A・B・C・D）とし、不可（D）の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業認定については、卒業年次の1月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については3月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	19人 (100.0%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>病院、医院、歯科医院、調剤薬局、ドラッグストア</p>			

<p>(就職指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 求人票の受付と、学生への公開 ・ 個別面接練習 ・ ハローワークとの連携 ・ 職場開拓 (就職担当、担任) ・ 就活相談 (要望に応じて、適宜) ・ (担任) 就職研究授業 (職場研究、自己分析、履歴書の書き方) ・ (担任) 就職ガイダンス (学生と保護者対象、就職オリエンテーション、先輩講話など) ・ (担任) 集団模擬面接指導 ・ (担任) 職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導
<p>(主な学修成果 (資格・検定等))</p> <p>医科医療事務管理士技能認定試験、歯科医療事務管理士技能認定試験、調剤事務管理士技能認定試験、Excel 表計算処理技能認定試験、文書処理能力検定試験、硬筆書写技能認定試験、POP 広告クリエイター技能審査試験、介護保険事務管理士、医師事務作業補助者、登録販売者試験</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>令和2年度4月のカリキュラム変更により、2年次 190 単位は選択科目の単位</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
62 人	1 人	1.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人との日常的面談、相談室利用の斡旋、複数教員による声かけ、保護者との面談を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	医療事務学科 短大併修コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2, 1 4 3 単位時間	1, 249 単位時間	315 単位時間	120 単位時間	0 単位時間	459 単位時間
			2143 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		29 人	0 人	2 人	19 人	21 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>当該学年が新年度を迎える前年度の12月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て1月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス（授業計画）案を各科目担当者が作成し、各学科の教務主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る（1～3月）。</p> <p>シラバス（授業計画）案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか（複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある）により、学習成果を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価対象となるテストの得点率60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率90%以上で、かつ、科目出席率80%以上 ・受講態度 <p>各科目における最終評価は4段階（A・B・C・D）とし、不可（D）の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業認定については、卒業年次の1月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については3月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13人 (100%)	0人 (0%)	11人 (84.6%)	2人 (15.4%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>病院（医療事務請負派遣）、医院、調剤薬局、</p>			

<p>(就職指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求人票の受付と、学生への公開 ・個別面接練習 ・ハローワークとの連携 ・職場開拓（就職担当、担任） ・就活相談（要望に応じて、適宜） ・（担任）就職研究授業（職場研究、自己分析、履歴書の書き方） ・（担任）就職ガイダンス （学生と保護者対象、就職オリエンテーション、先輩講話など） ・（担任）集団模擬面接指導 ・（担任）職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>メディカルクラーク(医科)、調剤事務技能認定試験、医療管理秘書士認定試験、病歴記録管理士認定試験、メディカルフロントコンシェルジュ、医師事務作業補助者、秘書検定2級、社会福祉主事任用資格</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26人	0人	0%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>病気療養・経済的問題・進路変更等。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>本人との日常的面談、相談室利用の斡旋、複数教員による声かけ、保護者との面談を行っている。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	柔道整復学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,765 単位時間	2,075 単位時間	0 単位時間	180 単位時間	0 単位時間	510 単位時間
			2765 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		179人	0人	13人	10人	23人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>当該学年が新年度を迎える前年度の12月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て1月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス（授業計画）案を各科目担当者が作成し、各学科の教務主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る（1～3月）。</p> <p>シラバス（授業計画）案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか（複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある）により、学習成果を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価対象となるテストの得点率60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率3分の2以上 ・受講態度 <p>各科目における最終評価は4段階（A・B・C・D）とし、不可の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業認定については、卒業年次の1月末～2月中までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については3月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定、国家試験等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
57人 (100%)	0人 (0%)	46人 (80.7%)	11人 (19.3%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>施術所（接骨院）、病院（整形外科）、介護保険施設</p>			

(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ 求人票の受付と、学生への公開 ・ 個別面接練習 ・ 職場開拓 (就職担当、担任) ・ 就活相談 (要望に応じて、適宜) ・ 就職フェスタ開催 (柔道整復学科・鍼灸学科対象企業説明会) ・ 職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導
(主な学修成果 (資格・検定等)) 柔道整復師国家試験受験資格
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
201 人	28 人	13.9%
(中途退学の主な理由) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人との日常的面談、相談室利用の斡旋、複数教員による声かけ、保護者との面談を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,700 単位時間	2,070 単位時間	0 単位時間	180 単位時間	0 単位時間	450 単位時間
			2,700 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		77 人	0 人	8 人	8 人	16 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 当該学年が新年度を迎える前年度の12月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て1月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス (授業計画) 案を各科目担当者が作成し、各学科の教務主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る (1~3月)。 シラバス (授業計画) 案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。

<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか（複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある）により、学習成果を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価対象となるテストの得点率 60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率 3分の2以上 ・受講態度 <p>各科目における最終評価は4段階（A・B・C・D）とし、不可の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>卒業認定については、卒業年次の1月末～2月中までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については3月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担任制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定、国家試験等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
37人 (100%)	2人 (5.4%)	28人 (75.7%)	7人 (18.9%)
(主な就職、業界等) 施術所（鍼灸院）、病院（整形外科）、介護保険施設			
(就職指導内容) ・求人票の受付と、学生への公開 ・個別面接練習 ・職場開拓（就職担当、担任） ・就活相談（要望に応じて、適宜） ・就職フェスタ開催（柔道整復学科・鍼灸学科対象企業説明会） ・職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) はり師・きゅう師国家試験受験資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
107 人	19 人	17.8%
(中途退学の主な理由) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人との日常的面談、相談室利用の斡旋、複数教員による声かけ、保護者との面談を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	歯科衛生士学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2, 590 単位時間	1,140 単位時間	308 単位時間	900 単位時間	0 単位時間	242 単位時間
			2590 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人		11 人	0 人	2 人	20 人	22 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 当該学年が新年度を迎える前年度の12月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て1月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス(授業計画)案を各科目担当者が作成し、各学科の教務主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る(1~3月)。 シラバス(授業計画)案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。
成績評価の基準・方法
(概要) 各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか(複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある)により、学習成果を評価する。 ・評価対象となるテストの得点率60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率3分の2以上 ・受講態度 各科目における最終評価は4段階(A・B・C・D)とし、不可の評価を得た際には、当該科目の履修了要件を満たさないものと判定する。

卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定については、卒業年次の1月末～2月中までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については3月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。
学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定、国家試験等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
一人 (一%)	一人 (一%)	一人 (一%)	一人 (一%)
(主な就職、業界等) 歯科医院、病院（歯科）			
(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ 求人票の受付と、学生への公開 ・ 個別面接練習 ・ 職場開拓（就職担当、担任） ・ 就活相談（要望に応じて、適宜） ・ 就職フェスタ開催（柔道整復学科・鍼灸学科対象企業説明会） ・ 職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導 			
(主な学修成果（資格・検定等）) 歯科衛生士国家試験受験資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等。		

(中退防止・中退者支援のための取組)
 本人との日常的面談、相談室利用の斡旋、複数教員による声かけ、保護者との面談を行っている。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	スポーツ健康学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,900 単位時間	975 単位時間	145 単位時間			780 単位時間
			1,900 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		25人	0人	2人	13人	15人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>当該学年が新年度を迎える前年度の12月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て1月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス(授業計画)案を各科目担当者が作成し、各学科の教務主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る(1~3月)。</p> <p>シラバス(授業計画)案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか(複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある)により、学習成果を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価対象となるテストの得点率60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率90%以上で、かつ、科目出席率80%以上 ・受講態度 <p>各科目における最終評価は4段階(A・B・C・D)とし、不可(D)の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>卒業認定については、卒業年次の1月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については3月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。</p>

学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
9人 (100%)	0人 (0%)	8人 (88.9%)	1人 (11.1%)
(主な就職、業界等) スポーツジム・フィットネスジム・スポーツ関連			
(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ 求人票の受付と、学生への公開 ・ 個別面接練習 ・ ハローワークとの連携 ・ 職場開拓（就職担当、担任） ・ 就活相談（要望に応じて、適宜） ・ （担任）就職研究授業（職場研究、自己分析、履歴書の書き方） ・ （担任）就職ガイダンス （学生と保護者対象、就職オリエンテーション、先輩講話など） ・ （担任）集団模擬面接指導 ・ （担任）職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導 			
(主な学修成果（資格・検定等）) JATI、SAQ、チャンピオンストラクター、日本体育協会公認スポーツリーダー			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20人	1人	5%
(中途退学の主な理由) 学校生活への不適合。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人との日常的な面談、相談室利用の斡旋、複数教員による声かけ、保護者との面談を行っている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
介護福祉学科	70,000 円	590,000 円	400,000 円	施設設備費、維持費、 補助活動費
こども福祉学科	70,000 円	590,000 円	329,000 円	
こども未来学科	70,000 円	590,000 円	327,000 円	
社会福祉学科	70,000 円	590,000 円	365,000 円	
心理福祉学科	70,000 円	590,000 円	258,000 円	
医療事務学科 医療事務コース	70,000 円	590,000 円	433,000 円	
医療事務学科 短大併修コース	70,000 円	590,000 円	450,000 円	
スポーツ健康学科	70,000 円	590,000 円	498,000 円	施設設備費、維持費、 各種教材費、補助活動費
柔道整復学科	0 円	720,000 円	444,000 円	
鍼灸学科	0 円	720,000 円	433,000 円	
歯科衛生士学科	70,000 円	590,000 円	609,000 円	施設設備費、維持費、 補助活動費
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.morii.ac.jp/other/information		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校関係者として関係施設等から参画いただいた委員を含む学校関係者評価委員会を設置して、実務に関する知見を活かして教育目標や教育環境等について評価を実施し、評価結果を教育活動その他の学校運営の改善に活かしていく。評価結果は、委員会終了後に学内委員会で検討し、実施時期等を決定し改善している。1 構成は、委員長 1 名、副委員長 1 名、専門委員 2 名以上、評価委員 3 名以上、書記 1 名とする。年に 1 回、事前に自己評価・自己点検の結果等関係資料を送付した上で、委員会を開催している。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
特定非営利活動法人 輝け「いのち」ネットワーク	平成 31 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日 (2 年)	関係施設役職員
株式会社システムエイド	平成 31 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日 (2 年)	関係施設役職員
社会福祉法人堤福祉会	平成 31 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日 (2 年)	関係施設役職員

社会福祉法人盛岡ひまわり会緑が丘ひまわり保育園	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	関係施設役職員
医療法人楽山会 はまゆり在宅介護支援センター	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	本校卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.morii.ac.jp/other/information		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.morii.ac.jp/
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。